

(様式第10)

富大病総第161号  
平成27年10月5日

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人富山大学附属病院長  
塚田 一博

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務  
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒930-0194 富山市杉谷2630
氏 名	国立大学法人富山大学附属病院

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人富山大学附属病院
----------------

3 所在の場所

〒 930 - 0194 富山市杉谷2630	電話(076) 434- 2281
---------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 血液内科 6 内分泌内科 7 代謝内科 8 感染症内科 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺外科 4 心血管外科 5 内分泌外科 6 小児外科 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)脳神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 7産婦人科
(8)産科 (9)婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 12放射線科 (13)放射線診断科
(14)放射線治療科 (15)麻酔科 (16)救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等	
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 漢方内科 2 病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	0床	0床	569床	612床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 9 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	330 人	42 人	351.8 人	看護補助者	20 人	診療エック ス線技師	0 人
歯科医師	10 人	6 人	12.9 人	理学療法士	5 人	臨床検査技 師	41 人
薬 剤 師	35 人	0 人	35.0 人	作業療法士	3 人	臨床検査 衛生検査技 師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	6 人	そ の 他	0 人
助 産 師	34 人	0 人	34.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサー ジ指圧師	0 人
看 護 師	607 人	11 人	615.8 人	臨床工学技士	12 人	医療社会事 業従事者	0 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	2 人	その他の技術員	12 人
歯科衛生士	2 人	0 人	2.0 人	歯科技工士	0 人	事 務 職 員	111 人
管理栄養士	5 人	0 人	5.0 人	診療放射線技師	31 人	その他の職員	18 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 9 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	31 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	24 人	耳鼻咽喉科専門医	6 人
精神科専門医	6 人	放射線科専門医	9 人
小児科専門医	22 人	脳神経外科専門医	8 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	13 人
泌尿器科専門医	7 人	麻酔科専門医	14 人
産婦人科専門医	13 人	救急科専門医	6 人
		合 計	172 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	502 人	12 人	514 人
1 日当たり平均外来患者数	1,189 人	46 人	1,235 人
1 日当たり平均調剤数			464 剤
必 要 医 師 数			122 人
必 要 歯 科 医 師 数			4 人
必 要 薬 剤 師 数			18 人
必 要 ( 准 ) 看 護 師 数			299 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	367 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	21床		
			心電計	有・無		
			人工呼吸装置	有・無		
			心細動除去装置	有・無		
			その他の救急蘇生装置	有・無		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	268 m <sup>2</sup>	病床数	23床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	36 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	432 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床検査自動化システム、総合検査管理システムなど		
細菌検査室	96 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway 96Siリファージュ など		
病理検査室	113 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理診断支援システム、自動免疫染色装置など		
病理解剖室	78 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など		
研究室	7,463 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	倒立型リサーチ顕微鏡システム、デジタルマイクロスコープ など		
講義室	358 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	388人
図書室	3,528 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	230,571冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日	
紹介率	85.0 %	逆紹介率	52.7 %
算出根拠	A：紹介患者の数		10,761人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,302人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,026人
	D：初診の患者の数		13,859人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	0 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1 人
前眼部三次元画像解析	46 人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	10 人
硬膜外自家血注入療法	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし。	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
<p>定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射である。脳定位、肺定位の放射線治療を実施している。</p>			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	35 人
当該医療技術の概要			
<p>強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療である。前立腺がん、頭頸部がん等で実施している。</p>			
医療技術名	高線量率密封小線源治療 (HDR-BT)	取扱患者数	19 人
当該医療技術の概要			
<p>密封されたイリジウム線源によりアプリケーションを用いて組織内または腔内の体内から行う放射線治療である。前立腺がん、子宮頸がん等で実施している。</p>			
医療技術名	ナビゲーション用CT撮影	取扱患者数	266 人
当該医療技術の概要			
<p>脳神経外科領域にて腫瘍・血管位置や危険部位の認識をサポートする目的で行われ、整形外科分野では骨に対す器具位置の表示などに応用される。この基準となるデータをX線CT装置で撮影する。耳鼻咽喉科、口腔外科、美容外科へ適用が拡大している。</p>			
医療技術名	X線CT-Angio撮影	取扱患者数	587 人
当該医療技術の概要			
<p>造影剤を急速静注したのち、動脈内の造影剤濃度が最も高くなるタイミング(動脈相)でCT撮影し、画像処理することで動脈が明確に抽出され、3D表示も可能となります。脳脈瘤、腹部大動脈瘤の診断に利用されている。</p>			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	239 人
当該医療技術の概要			
<p>冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。</p>			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	76 人
当該医療技術の概要			
<p>抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。</p>			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	14 人
当該医療技術の概要			
<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。</p>			
医療技術名	心不全・虚血性心疾患に対する和温療法	取扱患者数	38 人
当該医療技術の概要			
<p>薬剤治療抵抗性の心不全や狭心症例に対して、全身の温熱療法(和温療法)により心機能改善・QOLや運動耐容能改善を図る。</p>			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	21 人
当該医療技術の概要			
<p>シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。(冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009)</p>			
医療技術名	LDLアフェレーシス療法	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
<p>難治性ネフローゼ症候群や閉塞性動脈硬化症に対して、LDLアフェレーシス療法を行っている。</p>			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	2 人

当該医療技術の概要			
心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている			
医療技術名	先天性心疾患のカテーテル治療	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要			
動脈管開存、肺動脈狭窄、大動脈狭窄のカテーテル治療の他、フォンタン術後患者の側副血管に対するコイル塞栓術を行っている。			
医療技術名	心筋緻密化障害を含む心筋症の遺伝子解析	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
全国から心筋症の遺伝子解析の依頼を受け、年間100例の解析を行っている。			
医療技術名	頸部頸動脈血管形成・ステント術：CAS	取扱患者数	18 人
当該医療技術の概要			
脳血管内治療による頸動脈狭窄症に対する頸動脈形成術である。			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
頸部の広い動脈瘤に対して頭蓋内用ステントを併用したコイル塞栓術。			
医療技術名	脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	25 人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術や、硬膜動静脈瘻に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。			
医療技術名	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
放射性同位元素および色素を併用して、センチネルリンパ節生検を行っている。			
医療技術名	PET（ポジトロン断層法）	取扱患者数	1,356 人
当該医療技術の概要			
陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた難治性角膜疾患の治療	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
当院で独自に作成したヒト乾燥羊膜を用いた角膜穿孔、緑内障手術後に対し、効果的な治療をしている。			
医療技術名	未熟児網膜症に対する抗VEGF療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
未熟児網膜症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			
医療技術名	角膜疾患、緑内障に対する前眼部OCT検査	取扱患者数	95 人
当該医療技術の概要			
角膜形状解析、緑内障の解析を前眼部OCTを用いて詳細に行う。			
医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
多焦点眼内レンズを用いて白内障手術を行い良好な視力を得る。			
医療技術名	強度変調放射線療法	取扱患者数	16 人
当該医療技術の概要			



前立腺癌に対する体外照射。周辺臓器に対する線量を減らすことができ、合併症の低減につながる。

医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤手術	取扱患者数	17 人
-------	-------------	-------	------

当該医療技術の概要

顕微鏡を用いて、精索静脈瘤手術を行っている。動脈、リンパ管を温存することにより、手術成績の向上につながる。

医療技術名	精子機能検査	取扱患者数	100 人
-------	--------	-------	-------

当該医療技術の概要

精子運動能、精子受精能などを検査。

医療技術名	顕微鏡下精巣内精子回収法	取扱患者数	7 人
-------	--------------	-------	-----

当該医療技術の概要

顕微鏡下に精巣内の精子を回収している。

医療技術名	H. pylori3次除菌治療	取扱患者数	50 人
-------	-----------------	-------	------

当該医療技術の概要

2013年2月からH. pylori胃炎が除菌治療対象となり、既存の1次および2次除菌治療の除菌失敗例が急増している。県内医療機関で除菌失敗例は、ほぼすべて第三内科で3次除菌がなされており、除菌失敗要因を考慮した個々の患者に適した3次除菌が必要であり、当科は先進的3次除菌を既に実施している。

医療技術名	FDG-PETによる消化管間質腫瘍の耐性病変の早期発見	取扱患者数	40 人
-------	-----------------------------	-------	------

当該医療技術の概要

消化管間質腫瘍の治療のため、第三内科には北陸3県、新潟県、岐阜県、海外から患者が集中しており、分子標的治療の効果の早期判定、薬剤耐性病変の早期発見にFDG-PETが有用であることが海外報告から知られており、既に当科でも利用している。

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ ベーチェット病	36 人	・ 膿疱性乾癬	3 人
・ 多発性硬化症	58 人	・ 広範脊柱管狭窄症	7 人
・ 重症筋無力症	42 人	・ 原発性胆汁性肝硬変	39 人
・ 全身性エリテマトーデス	142 人	・ 重症急性膵炎	1 人
・ スモン	0 人	・ 特発性大腿骨頭壊死症	19 人
・ 再生不良性貧血	6 人	・ 混合性結合組織病	29 人
・ サルコイドーシス	50 人	・ 原発性免疫不全症候群	8 人
・ 筋萎縮性側索硬化症	17 人	・ 特発性間質性肺炎	14 人
・ 強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	111 人	・ 網膜色素変性症	59 人
・ 特発性血小板減少性紫斑病	23 人	・ プリオン病	1 人
・ 結節性動脈周囲炎	13 人	・ 肺動脈性肺高血圧症	10 人
・ 潰瘍性大腸炎	124 人	・ 神経線維腫症	17 人
・ 大動脈炎症候群	16 人	・ 亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ ビュルガー病	14 人	・ バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
・ 天疱瘡	10 人	・ 慢性血栓性肺高血圧症	9 人
・ 脊髄小脳変性症	49 人	・ ライソゾーム病	0 人
・ クロウン病	78 人	・ 副腎白質ジストロフィー	1 人
・ 難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・ 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・ 悪性関節リウマチ	20 人	・ 脊髄性筋萎縮症	4 人
・ パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	234 人	・ 球脊髄性筋萎縮症	2 人
・ アミロイドーシス	2 人	・ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14 人
・ 後縦靭帯骨化症	52 人	・ 肥大型心筋症	4 人
・ ハンチントン病	3 人	・ 拘束型心筋症	0 人
・ モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	40 人	・ ミトコンドリア病	12 人
・ ウェゲナー肉芽腫症	5 人	・ リンパ脈管筋腫症(LAM)	1 人
・ 特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35 人	・ 重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・ 多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	27 人	・ 黄色靭帯骨化症	5 人
・ 表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	48 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院基本料 一般病棟 7対1 入院基本料	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 特定機能病院基本料 精神病棟 13対1 入院基本料	・ 救急搬送患者地域連携受入加算
・ 臨床研修病院入院診療加算 (基幹型) 医科	・ データ提出加算 2
・ 臨床研修病院入院診療加算 (単独型) 歯科	・ 特定集中治療室管理料 4
・ 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料 1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 総合周産期特定集中治療管理料
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 診療録管理体制加算	・ 小児入院医療管理料 2
・ 急性期看護補助体制加算 (25対1, 5割未満)	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 障害者歯科医療連携加算
・ 看護補助加算 2	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算 1	・
・ 無菌治療室管理加算 2	・
・ 精神病棟入院時医学管理加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 医療安全対策加算 1	・
・ 感染防止対策加算 1, (感染防止対策地域連携加算)	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 新生児特定集中治療室退院調整加算 3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・ヘッドアップティルト試験
・高度難聴指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脳磁図(神経磁気診断)
・がん患者指導管理料 1	・神経学的検査
・がん患者指導管理料 2	・補聴器適合検査
・院内トリアージ実施料	・ロービジョン検査判断料
・夜間休日救急搬送医学管理料	・コンタクトレンズ検査料 I
・外来リハビリテーション診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・画像診断管理加算 1
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1(生命維持装置使用)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2(放射線治療計画策定)	・外来化学療法加算 1
・造血器腫瘍遺伝子検査(血液細胞核酸増幅同定検査)	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出	・脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
・検体検査管理加算(IV)	・運動器リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・植込型心電図検査	・医療保護入院等診療料
・時間内歩行試験	・透析液水質確保加算
・胎児心エコー法	・一酸化窒素吸入療法

施設基準の種類	施設基準の種類
医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6 ・（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術	・ 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・ 補助人工心臓
・ 骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）	・ 経皮的動脈遮断術
・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ ダメージコントロール手術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・ 生体部分肝移植術
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）	・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ 網膜再建術	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 人工内耳植込術	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算 1	・ 同種死体腎移植術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算 2	・ 生体腎移植術
・ 経皮的冠動脈形成術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによる）	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 経皮的冠動脈ステント留置術	・ 輸血管理料 I
・ 経皮的中隔心筋焼灼術	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ ペースメーカー移植術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
・ びペースメーカー交換術	・ 麻酔管理料（I）
・ 植込型心電図記録計移植術	・ 麻酔管理料（II）
・ 植込型心電図記録計摘出術	・ 放射線治療専任加算
・ 両心室ペースメーカー移植術	・ 外来放射線治療加算
・ 両心室ペースメーカー交換術	・ 1回線量増加加算
・ 植込型除細動器移植術	・ 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
・ 植込型除細動器交換術	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 両室ペーシング機能付き植込型徐細動器移植術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 両室ペーシング機能付き植込型徐細動器交換術	・ 強度変調放射線治療（IMRT）



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門：1か月に2～4回程度開催 病理診断部門：1か月に9～12回程度開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 21 例 / 剖検率 10.6 %

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
クロマチンリモデリング分子ATRX遺伝子改変マウスによる脳発達障害の分子病態解明	北島 勲	臨床分子病態検査学	¥3,400,000	補委 日本学術振興会
免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する	齋藤 滋	産科婦人科学	¥3,500,000	補委 日本学術振興会
病理学の最新テクノロジーを応用した漢方薬の薬効・機能解析法の確立	常山 幸一	病理診断学	¥4,000,000	補委 日本学術振興会
統合失調症前駆期の神経発達病態解明と生物学的早期診断法の開発	鈴木 道雄	精神神経医学	¥1,500,000	補委 日本学術振興会
軟骨変性破壊の共有パスウェイを標的とした分子治療の開発	木村 友厚	整形外科	¥3,300,000	補委 日本学術振興会
PDGFが誘導する幹細胞を標的とした神経組織の再生と修復	笹原 正清	病態・病理学	¥4,600,000	補委 日本学術振興会
新しい多能性幹細胞(Muse細胞)を用いた脳梗塞の再生治療の戦略的研究	黒田 敏	脳神経外科学	¥4,800,000	補委 日本学術振興会
骨軟部肉腫に対する分化誘導療法の開発	金森 昌彦	人間科学1	¥800,000	補委 日本学術振興会
精神疾患における脳形態変化の疾患特異性に関する研究	高橋 努	神経精神科	¥600,000	補委 日本学術振興会
アルツハイマー病による全身麻酔薬作用の修飾-疾病モデルマウス海馬における検討-	廣田 弘毅	麻酔科学	¥700,000	補委 日本学術振興会
ゴーシェ病治療薬開発を指向したイミノ糖型シャペロンのデザイン合成研究	加藤 敦	薬剤部	¥1,300,000	補委 日本学術振興会
血小板由来増殖因子の神経細胞死抑制およびシナプス形成促進作用に対する役割の検討	石井 陽子	病態・病理学	¥1,300,000	補委 日本学術振興会
温度感受性遺伝子導入動物カハール細胞を用いた消化管間質腫瘍の悪性化機序	杉山 敏郎	内科学(第三)	¥200,000	補委 日本学術振興会
ライブイメージング法を用いた間葉系幹細胞の時間・空間的解析-肝臓内ニッチの探索	高原 照美	内科学(第三)	¥1,000,000	補委 日本学術振興会
水疱性類天疱瘡の病態関連モノクローナル抗体の単離と新規診断法・治療法の開発	清水 忠道	皮膚科学	¥1,300,000	補委 日本学術振興会
消化器癌幹細胞と微小環境との相互作用に関する治療標的マイクロRNAの探索	奥村 知之	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	¥1,100,000	補委 日本学術振興会
口腔癌顎骨浸潤の免疫学的機序の解明と新規治療戦略の開発	野口 誠	歯科口腔外科学	¥1,100,000	補委 日本学術振興会
2型糖尿病疾患感受性SNPから得られる遺伝的情報の臨床的有用性に関する検討	岩田 実	地域医療支援学講座	¥900,000	補委 日本学術振興会
新たなTaq酵素を用いた迅速な感染症起因菌同定ITシステムの臨床応用	仁井見 英樹	検査部	¥1,300,000	補委 日本学術振興会
心房細動の電氣的・構造的基質に対するPPAR $\gamma$ 活性化とAT-1受容体遮断の効果	西田 邦洋	第二内科	¥1,000,000	補委 日本学術振興会



心筋緻密化障害におけるサルコメア遺伝子変異と機能異常の網羅的解析	市田 蒔子	小児科学	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
表皮角化細胞における終末分化の分子機構の解明と皮膚癌に対する新規治療法の開発	牧野 輝彦	皮膚科学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
炎症性サイトカイン抑制による肉腫の増殖・転移抑制	安田 剛敏	整形外科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
超音波照射によるヘムオキシゲナーゼ1遺伝子発現制御と勃起不全治療への応用	渡部 明彦	腎泌尿器科学	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の発症予防戦略構築のための研究～産科学と疫学と免疫学の融合～	塩崎 有宏	産科産婦人科	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
切迫早産例に対する本邦独自の治療法を見直し、効率的な治療戦略を確立するための研究	米田 哲	産科産婦人科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
発がん過程におけるインスレーターおよびメチル化機構の相互関係の解明と診断への展開	井村 穰二	病理診断学	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
在宅緩和ケアにおける地域連携クリニックパスおよび緩和ケアチームの有用性の検証	菓子井 達彦	臨床腫瘍部	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
肺線維症モデルマウスにおいてSRT1720がHSP47発現に与える効果	山田 徹	地域医療支援学講座	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
肥満・糖尿病が肝がんの発症と腫瘍関連マクロファージの極性に与える影響に関する研究	薄井 勲	第一内科	¥2,800,000	補委	日本学術振興会
トリプルネガティブ乳癌におけるKLF4、Her4経路の解明と治療効果予測の研究	長田 拓哉	第二外科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
胆汁中のmiRNAプロファイリングによる胆道癌の早期診断と個別化治療	澤田 成朗	第二外科	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
ホルター心電図による細動波（f波）周波数解析を指標とした心房細動手術の構築	深原 一晃	外科学（呼吸・循環・総合外科）	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
追跡調査からみた腰椎椎間板ヘルニアの疾患感受性遺伝子の解明	川口 善治	整形外科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
脊椎椎間板変性制御の病態解明および治療法の確立	関 庄二	整形外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
向精神薬服用患者に対する安全な全身麻酔管理に関する基礎的研究	佐々木 利佳	麻酔科学	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
遠隔虚血プレコンディショニングによる深部静脈血栓症に対する戦略的予防法の確立	釈永 清志	手術部	¥900,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞由来EMPの生物活性の解析および産生血管内皮細胞の解明	山本 誠士	病態・病理学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
イタイイタイ病理組織中のカドミウム局在の可視化と周囲微小環境の病理学的解明	常山 幸一	病理診断学	¥2,200,000	補委	日本学術振興会
新規高感度迅速起因菌同定法とNF- $\kappa$ B病態解析法を統合した敗血症検査システム構築	北島 勲	臨床分子病態検査学	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
癌の悪性度を決定する遺伝子群の探索	安藤 孝将	内科学（第三）	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
上皮間葉転換に伴うアポトーシス制御と抗癌剤耐性機構の解析	峠 正義	外科学（呼吸・循環・総合外科）	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
リンパ管新生を制御する分子の同定とリンパ節転移およびリンパ浮腫の治療研究	仙田 一貴	外科学（呼吸・循環・総合外科）	¥1,700,000	補委	日本学術振興会

マクロファージの酸素センシング機構の糖尿病発症における役割	仙田 聡子	第一内科	¥2,100,000	補委	日本学術振興会
流産・妊娠高血圧腎症病態解明に向けたTh17細胞/制御性T細胞の機能解析	伊藤 実香	産婦人科（エコチルユニットセンター）	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
fMRIを用いた中枢神経における急性痛の発現機構の解明	竹村 佳記	麻酔科学	¥900,000	補委	日本学術振興会
敗血症性急性肺傷害に対するHDAC阻害剤の効果に関する研究	青木 優太	手術部	¥700,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症におけるブラジキニンに関する検討	吉野 修	産科婦人科学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
ルーチンの病理組織標本を用いた胎状奇胎の簡便な確定診断ストラテジーの確立	三輪 重治	病理診断学	¥2,000,000	補委	日本学術振興会
Sirt1が関節炎発症に及ぼす影響	朴木 博幸	第一内科	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
心筋緻密化障害の病態解明－患者血液細胞由来の心筋細胞を用いた機能解析－	廣野 恵一	周産母子センター	¥2,200,000	補委	日本学術振興会
花粉誘導眼瞼周囲皮膚炎に対するMIFの病因的役割の解明	吉久 陽子	皮膚科学	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
生薬誘導HSP70がUVB誘導DNA傷害に及ぼす影響	竹上 與志昌	皮膚科学	¥2,000,000	補委	日本学術振興会
GIST培養細胞のマイクロRNA解析による新規バイオマーカー探索と薬剤感受性予測	松井 恒志	外科学（消化器・腫瘍・総合外科）	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
Na <sup>+</sup> , K <sup>+</sup> -ATPaseの発現上昇に着目した肝細胞癌の新規分子標的の探索的研究	渋谷 和人	第二外科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
刺激応答性遺伝子発現制御システムの治療応用の検討	森井 章裕	泌尿器科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
早産の原因解明－羊水中感染微生物の迅速高感度検出システムの構築－	米田 徳子	産科婦人科	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
更年期代謝障害とうつに対するエストロゲンの中枢作用に立脚した新規補充療法の開発	米澤 理可	産科婦人科	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
ミエロイド系抑制性細胞の形質変化を利用した口腔癌に対する免疫ワクチン療法の開発	富原 圭	歯科口腔外科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会

計 59

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を入力すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yamamoto Y	感染症科	A study on the management of acute respiratory tract infection in adult	Jpn. J. Antibiotics 2014 Aug; 67(4): 223-32
2	Inomata M	第一内科	Outcome and prognostic factors in patients with small cell lung cancer who receive third-line chemotherapy	Tumori. 2014; 100: 507-11
3	Kambara K	第一内科	Effect of lung volume on airway luminal area assessed by computed tomography in chronic obstructive pulmonary disease	PLoS One. 2014 Feb 28; 9(2): e90040
4	Kaku K	第一内科	Efficacy and safety of monotherapy with the novel sodium/glucose cotransporter-2 inhibitor tofogliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a combined Phase 2 and 3 randomized, placebo-controlled, double-blind, parallel-group comparative study	Cardiovascular Diabetology. 2014 Mar 28; 13: 65
5	Inomata M	第一内科	Efficacy and toxicity of pemetrexed monotherapy for previously untreated elderly patients with non-squamous cell lung cancer with wild-type(or unknown)EGFR status	Gan To Kagaku Ryoho. 2014 Jul; 41(7): 849-52
6	Inomata M	第一内科	Usefulness of the palliative prognostic index in patients with lung cancer	Med Oncol. 2014 Sep; 31(9): 154
7	Shinoda K	第一内科	Pseudo-Beçet's disease associated with tuberculosis: a case report and review of the literature	Rheumatol Int. 2014 Oct; 34(10): 1471-4
8	Shinoda K	第一内科	Primary pulmonary lymphoma presenting with multiple lung nodules	Am J Res Cri Care Med. 2014 Nov 1; 190: e30-e31
9	Shinoda K	第一内科	Signe du halo pulmonaire réversible comme manifestation initiale d' une polyarthrite rhumatoïde	Revue du Rhumatisme. 2014 Dec; 81(6): 505
10	Nakatani Y	第二内科	Electrophysiological and anatomical differences of the slow pathway between the fast-slow form and slow-slow form of atrioventricular nodal reentrant tachycardia	Europace. 2014 Apr; 16(4): 551-7
11	Ushijima R	第二内科	Differing effects of adaptive servoventilation and continuous positive airway pressure on muscle sympathetic nerve activity in patients with heart failure	Circ J. 2014 Jun; 78(6): 1387-95
12	Arita K	第三内科	Synergy of Myc, cell cycle regulators and the Akt pathway in the development of aggressive B-cell lymphoma in a mouse model	Leukemia. 2014 Nov; 28(11): 2270-2
13	Wada A	第三内科	A novel HLA-B allele, HLA-B*44:184, identified by super high-resolution single-molecule sequence-based typing in a Japanese individual	Tissue Antigens. 2014 Mar; 83(3): 198-9
14	Yoshita H	第三内科	Predictive value of optimal morphologic response to first-line chemotherapy in patients with colorectal liver metastases	Digestion. 2014; 89(1): 43-8
15	Nanjo S	第三内科	Immune-mediated protein-losing enteropathy with Down syndrome	Intern Med. 2014; 53(20): 2301-5
16	Nishikawa J	第三内科	Palatal ulcer as an initial manifestation of Crohn's disease	Clin Gastroenterol Hepatol. 2014 Dec; 12(12): e115-6

17	Tajiri K	第三内科	A case of progressing focal nodular hyperplasia and its molecular expression pattern	Clin J Gastroenterol. 2014 Apr; 7: 271-7
18	Makino T	皮膚科	Expression of filaggrin-2 protein in the epidermis of human skin diseases: a comparative analysis with filaggrin	Biochem Biophys Res Commun. 2014; 449(1): 100-6
19	Makino T	皮膚科	Ultraviolet B irradiation induces the expression of hornerin in xenotransplanted human skin	Acta Histochem. 2014; 116(1): 20-4
20	Yoshihisa Y	皮膚科	Involvement of MIF in basement membrane damage in chronically UVB-exposed skin in mice	PLoS One. 2014; 9: e89569
21	Yoshihisa Y	皮膚科	Astaxanthin, a xanthophyll carotenoid, inhibits ultraviolet-induced apoptosis in keratinocytes	Exp Dermatol. 2014; 23: 178-83
22	Makino T	皮膚科	Creeping eruption due to a larva of Spirurina type X	Lancet. 2014; 384: 2082
23	Makino T	皮膚科	Induction of skin lesions by ultraviolet B irradiation in a case of pemphigus erythematosus	Acta Derm Venereol. 2014; 94: 487-88
24	Mizawa M	皮膚科	Primary cutaneous Ewing sarcoma following metastasis to the bone and lymph nodes	Br J Dermatol. 2014; 171: 660-2
25	Matsui K	皮膚科	Bullous pemphigoid with IgG anti-LAD-1 antibodies	Eur J Dermatol. 2014; 24: 275-6
26	Mori N	皮膚科	Successful treatment with UVA rush hardening in a case of solar urticarial	Eur J Dermatol. 2014; 24: 117-9
27	Mori N	皮膚科	Hailey-Hailey disease diagnosed based on an exacerbation of contact dermatitis with topical crotamiton	Eur J Dermatol. 2014; 24: 263-4
28	Shinoda K	皮膚科	Pseudo-Behçet's disease associated with tuberculosis: a case report and review of the literature	Rheumatol Int. 2014; 34:1471-4
29	Seki Y	皮膚科	Immunohistological examination of hand, foot and mouth disease caused by coxsackievirus A6	Eur J Dermatol. 2014; 24: 506-7
30	Kanegane H	小児科	Efficacy and safety of IgPro20, a subcutaneous immunoglobulin, in Japanese patients with primary immunodeficiency diseases	J Clin Immunol. 2014 Feb; 34(2): 204-11
31	Hirono K	小児科	N-terminal pro-brain natriuretic peptide as a predictor of reoperation in children with surgically corrected tetralogy of Fallot	Circ J. 2014 Feb 25; 78(3): 693-700
32	Hirono K	小児科	Percutaneous catheter aspiration thrombectomy for the occluded stents of pulmonary artery in children with single ventricle physiology after fontan surgery	Catheter Cardiovasc Interv. 2014 Dec 1; 84(7): 1153-6
33	Miya K	小児科	Anti-NMDAR autoimmune encephalitis	Brain Dev. 2014 Sep; 36(8): 645-52
34	Hoshino A	小児科	Allogeneic Bone Marrow transplantation appears to ameliorate IgA nephropathy in a patient with X-linked thrombocytopenia	J Clin Immunol. 2014 Jan; 34(1): 53-7
35	Hoshino A	小児科	Pneumothorax in patients with severe combined immunodeficiency	Pediatr Int. 2014 Aug; 56(4): 510-4
36	Horino S	小児科	Selective expansion of donor-derived regulatory T cells after allogeneic bone marrow transplantation in a patient with IPEX syndrome	Pediatr Transplant. 2014 Feb; 18(1): E25-30

37	Hoshino A	小児科	Graft versus tumor effect against neuroblastoma: a case report with long-term survival and a review of the literature	J Hematopoietic cell Transplantation. 2014 3(3): 93-6
38	Hoshino A	小児科	Relapsed leukemia without peripheral blood abnormalities and clinical symptoms detected on MRI	Pediatr Int. 2014 Oct; 56(5): 798
39	Higuchi Y	神経精神科	Mismatch negativity and P3a/reorienting complex in subjects with schizophrenia or at-risk mental state	Frontiers in Behavioral Neuroscience. 2014 May; 8: 172
40	Kido M	神経精神科	The polymorphism of YWHAE, a gene encoding 14-3-3epsilon, and brain morphology in schizophrenia: a voxel-based morphometric study	PLoS One. 2014 Aug; 9(8): e103571
41	Takahashi T	神経精神科	The polymorphism of YWHAE, a gene encoding 14-3-3epsilon, and orbitofrontal sulcogyral pattern in patients with schizophrenia and healthy subjects	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2014 Jun; 51: 166-71
42	Takahashi T	神経精神科	Olfactory sulcus morphology in established bipolar affective disorder	Psychiatry Res. 2014 Apr; 222(1-2): 114-7
43	Takahashi T	神経精神科	Altered depth of the olfactory sulcus in ultra high-risk individuals and patients with psychotic disorders	Schizophr Res. 2014 Mar; 153(1-3): 18-24
44	Takayanagi Y	神経精神科	Risk of schizophrenia spectrum and affective disorders associated with small for gestational age birth and height in adulthood	Schizophr Res. 2014 Dec; 160(1-3): 230-2
45	Takayanagi Y	神経精神科	Accuracy of reports of lifetime mental and physical disorders: results from the Baltimore Epidemiological Catchment Area study	JAMA Psychiatry. 2014 Mar; 71(3): 273-80
46	Shojaku H	耳鼻咽喉科	Response to intra-arterial cisplatin and concurrent radiotherapy in a patient with primary mucosal malignant melanoma of the nasal cavity	Head Neck. 2013 Apr; 35(4): E131-7
47	Nagata T	第二外科	Prognostic significance of NANOG and KLF4 for breast cancer	Breast Cancer. 2014; 21: 96-101
48	Okumura T	第二外科	MicroRNA-203 inhibits the progression of esophageal squamous cell carcinoma with restored epithelial tissue architecture in vivo	Int J Oncol. 2014 Jun; 44(6): 1923-32
49	Okumura T	第二外科	Abnormal cell proliferation in the p75NTR-positive basal cell compartment of the esophageal epithelium during squamous carcinogenesis	Dis Esophagus. 2014 May 30; 2014: Article ID 12245
50	Shimada Y	和漢診療科	Synchronous asymptomatic colonic metastasis from primary esophageal squamous cell carcinoma. J	surg. case rep. 2014 Jan 7; 2014(1): pii: rjt117
51	Kuroda S	脳神経外科	Clinical significance of STA-MCA double anastomosis for hemodynamic compromise in post-JET/COSS era	Acta Neurochir (Wein). 2014 Jan; 156(1): 77-83
52	Kashiwazaki D	脳神経外科	Delayed abducens nerve palsy after transvenous coil embolization for cavernous sinus dural arteriovenous fistulae	Acta Neurochir (Wein). 2014 Jan; 156(1): 97-101
53	Sakai N	脳神経外科	Recent trends in neuroendovascular therapy in Japan: Analysis of a nationwide survey-Japanese registry of neuroendovascular therapy (JR-NET) 1 and 2	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014; 54(1): 1-8
54	Matsumura N	脳神経外科	An operating microscope with higher magnification and higher resolution for cerebral aneurysm surgery: preliminary experience- technical note	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014 Jun 17; 54(6): 497-501
55	Asahi T	脳神経外科	Impact of bilateral subthalamic stimulation on motor/cognitive functions in Parkinson's disease	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014; 54(7): 529-36

56	Kashiwazaki D	脳神経外科	The roles and issues of P2Y12 percent inhibition assessed by VerifyNow assay for patients undergoing neurointervention: a prospective study	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Aug; 23(7): 1830-6
57	Kuroda S	脳神経外科	Effects of surgical revascularization on cerebral oxygen metabolism in patients with moyamoya disease: An 150- <sup>68</sup> Gas positron emission tomographic study	Stroke. 2014 Sep; 45(9): 2717-21
58	Kashiwazaki D	脳神経外科	Increased expression of vascular endothelial growth factor and its receptor in enlarging brain arteriovenous malformations – a case report	Br J Neurosurg. 2014 Jan; 28(1): 119-21
59	Kashiwazaki D	脳神経外科	Reversal of cognitive dysfunction by total removal of a large lateral ventricle meningioma: a case report with neuropsychological assessments	Case Rep Neurol. 2014 Feb; 6(1): 44-9
60	Asahi T	脳神経外科	Stereotactic neurosurgery for writer' s cramp. Report of two cases with an overview of the literature	Stereotact Func Neurosurg. 2014; 92(6): 405-11
61	Matsushita I	整形外科	Long-term clinical and radiographic results of cementless total hip arthroplasty for patients with rheumatoid arthritis: minimal 10-year follow-up.	Mod Rheumatol. 2014 Mar; 24(2): 281-4
62	Kawaguchi Y	整形外科	Anterior decompressive surgery after cervical laminoplasty in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament	Spine J. 2014 Jun 1; 14(6): 955-63
63	Kawaguchi Y	整形外科	New classification of ossification of the posterior longitudinal ligament using CT images	J Orthop Sci. 2014 Jul; 19(4): 530-6
64	Seki S	整形外科	Cartilage intermediate layer protein promotes lumbar disc degeneration	Biochem Biophys Res Commun. 2014 Apr ; 446(4): 876-81
65	Seki S	整形外科	Inhibitory effect of tacrolimus on progression of joint damage in patients with rheumatoid arthritis	Int J Rheum Dis. 2014 Sep; 17(7): 749-54
66	Kawaguchi Y	整形外科	Ossification of the posterior longitudinal ligament in not only the cervical spine, but also other spinal regions: analysis using multidetector computed tomography of the whole spine	Spine (Phila Pa 1976). 2013 Nov ; 38(23): e1477-82
67	Kawaguchi Y	整形外科	Monoparesis of upper extremity due to ipsilateral upper cervical cord compression	J Orthop Sci. 2014 May 31
68	Suzuki K	整形外科	Pleomorphic hyalinizing angiectatic tumor arising in the thigh: A case report.	Oncol Lett. 2014 Apr; 7(4): 1249-52
69	Suzuki K	整形外科	An intraosseous malignant peripheral nerve sheath tumor of the lumbar spine without neurofibromatosis: Case report and review of the literature	Oncol Lett. 2014 Jun; 7(6): 1965-9
70	Suzuki K	整形外科	Metastasis of gastrointestinal stromal tumor to skeletal muscle: a case report	J Med Case Rep. 2014 Jul; 8: 256
71	Shiozaki, A	産科婦人科	Multiple pregnancy, short cervix, part-time worker, steroid use, low educational level and male fetus are risk factors for preterm birth in Japan: A multicenter, prospective study	J Obstet Gynaecol Res. 2014; 40(1): 53-61
72	Shiozaki A	産科婦人科	Intestinal microbiota is different in women with preterm birth: results from terminal restriction fragment length polymorphism analysis	PLoS ONE. 2014; 9(11): e111374
73	Miyakoshi A	眼科	Efficacy of Intraoperative Anterior Segment Optical Coherence Tomography during Descemet's Stripping Automated Endothelial Keratoplasty	ISRN Ophthalmol. 2014 Feb 2; 2014: 562062
74	Tojo N	眼科	Improvement of fluctuations of intraocular pressure after cataract surgery in primary angle closure glaucoma patients	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 Sep; 252(9): 1463-8
75	Tojo N	眼科	Comparison of fluctuations of intraocular pressure before and after selective laser trabeculoplasty in normal-tension glaucoma patients	J Glaucoma. 2014 Oct-Nov; 23(8): e138-43

76	Komiya A	泌尿器科	Analysis of inter-examination differences in sperm nuclear vacuoles among male patients with infertility	Syst Biol Reprod Med. 2014 Feb; 60(1): 35-42
77	Komiya A	泌尿器科	Application of a new technique, spiral tissue microarrays constructed using needle biopsy specimens, to prostate cancer research	Int J Oncol. 2014 Jan; 44(1): 195-202
78	Komiya A	泌尿器科	Clinical factors associated with sperm DNA fragmentation in male patients with infertility	Scientific World Journal. 2014; 2014:Article ID 868303
79	Komiya A	泌尿器科	Sperm nuclear vacuoles in relation to acrosome reactions and sperm motility	Scientific World Journal. 2014; 2014:Article ID 178970
80	Nozaki T	泌尿器科	Hand-assisted, conventional and laparoendoscopic single-site surgery for partial nephrectomy without ischemia using a microwave tissue coagulator	Urol J. 2014 Jul; 11(3): 1595-601
81	Nozaki T	泌尿器科	The effect of selective renal parenchymal clamping during laparoscopic partial nephrectomy on early postoperative renal function: a preliminary report	Urol J. 2014 May; 11(2): 1415-22
82	Nozaki T	泌尿器科	Retraction-related acute liver failure after urological laparoscopic surgery	Curr Urol. 2014 Oct; 7(4): 199-203
83	Sasaki H	麻酔科	Mechanisms of cisplatin-induced muscle atrophy	Toxicol Appl Pharmacol. 2014 Jul 15; 278(2): 190-9
84	Takebe M	麻酔科	Inhibition of histone deacetylases protects septic mice from lung and splenic apoptosis	J Surg Res. 2014 Apr; 187(2): 559-70
85	Masuda T	麻酔科	Involvement of amygdala in learning and memory impairment due to permanent bilateral carotid artery occlusion in rats	富山大学医学雑誌. 2013 Dec 28; 24(1): 6-10
86	Tomihara K	歯科口腔外科	Gemcitabine chemotherapy induces phenotypic alterations of tumor cells that facilitate antitumor T cell responses in a mouse model of oral cancer	Oral Oncol. 2014;50:457-67
87	Fujimoto M	和漢診療科	Adietary restriction influences the progression but not the initiation of MSG-induced nonalcoholic steatohepatitis	J Med Food. 2014 Mar; 17(3): 374-83
88	Watarai H	和漢診療科	New treatment for Alzheimer's disease, kamikihito, reverses amyloid- $\beta$ -induced progression of tau phosphorylation and axonal atrophy. Evid Based Complement Alternat Med	Epub 2014 Feb 23; 2014:706487
89	Okudera H	災害救命センター	Development process of Neuroresuscitation Guidelines in Japan.	Neuroepidemiology. 2014 Nov; 43(2): 104
90	Yoshida T	周産母子センター	Intrauterine growth restriction modifies gene expressionprofiling in cord blood	Pediatr Int. 2014 Aug; 56(4): 559-65
91	Shiozaki A	周産母子センター	Prenatal diagnosis of enterolithiasis at 18 weeks: multiple foci of intraluminal calcified meconium ithin echogenic bowel.	J Med Ultrasonics. Published online 2014 Jul 30; DOI 10.1007/s10396-014-0561-9
92	Kawasaki Y	周産母子センター	Neonatal acute megakaryoblastic leukemia mimicking congenital neuroblastoma	Clinical Case Reports 2014; DOI: 10.1002/ ccr3.183
93	Koura U	周産母子センター	Successful treatment of systemic cytomegalovirus infection in severe combined immunodeficiency using allogeneic bone marrow transplantation followed by adoptive immunotherapy.	J Investig Allergol Clin Immunol. 2014; 24(3): 200-2
94	Hayashi S	病理部	A-tubulin nuclear overexpression is an indicator of poor prognosis in patients with non-Hodgkin's lymphoma	Int J Mol Med. 2014 Aug; 34(2): 483-90

95	Imura J	病理部	Malignant transformation of hyperplastic gastric polyps: An immunohistochemical and pathological study of the changes of neoplastic phenotype.	Oncol Lett. 2014 May; 7(5): 1459-63
96	Tsuneyama K	病理部	Neonatal MSG treatment causes obesity, diabetes, and macrovesicular steatohepatitis with liver nodules in DIAR mice	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Apr; 29(9): 1736-43
97	Imura J	病理部	Introduction and utility of liquid-based cytology on aspiration biopsy of peripheral nodular lesions of the lung.	Oncol Lett. 2014 Mar; 7(3): 669-73
98	Imura J	病理部	Introduction and utility of liquid-based cytology on aspiration biopsy of peripheral nodular lesions of the lung.	Oncol Lett. 2014 Mar; 7(3): 669-73
99	Imura J	病理部	Malignant transformation of hyperplastic gastric polyps: An immunohistochemical and pathological study of the changes of neoplastic phenotype.	Oncol Lett. 2014 May; 7(5): 1459-63
100	Hayashi S	病理部	A-tubulin nuclear overexpression is an indicator of poor prognosis in patients with non-Hodgkin's lymphoma.	Int J Mol Med. 2014 Aug; 34(2): 483-90
101	Tsuneyama K	病理部	Neonatal MSG treatment causes obesity, diabetes, and macrovesicular steatohepatitis with liver nodules in DIAR mice.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Sep; 29(9): 1736-43
102	Kita K	総合診療部	Pectoralis Pyomyositis in an Elderly Japanese Woman: a Case Report.	General Medicine. 2014; (5): 140-42
103	Taguchi Y	神経内科	Findings of 123I-iomazenil SPECT during and after stroke-like episodes in a patient with MELAS.	Clin Nucl Med. 2014; 39: e334-5
104	Taguchi Y	神経内科	Improvement in Parkinsonism with Zonisamide Treatment in a Patient with Dementia with Lewy Bodies.	Journal of Neurology & Stroke. 2014; 1: e1-3
105	Fujinami H	光学医療診療部	Endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal neoplasms using the stag beetle knife.	Dis Esophagus. 2014 Feb 26; 27(1): 50-4

計 105

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				



9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①目的②審査資料②-1研究実施の審査②-2研究計画変更による研究継続の審査②-3重篤な有害事象報告及び研究継続の審査②-4研究の継続に影響を及ぼす事実や情報の報告及び研究継続の審査③研究計画の点検④審査④-1審査種別の決定④-2事前審査（研究実施の審査時のみ）④-3迅速審査④-4委員会の開催⑤研究実施中及び終了時の調査⑤-1研究経過報告⑤-2終了報告⑥秘密の保全⑦資料の保全⑧議事の公開、厚生労働大臣等への報告	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 厚生労働科学研究における利益相反の管理に関する指針(H20. 3. 31科発第0331001号厚生科学課長)、文部科学省[21世紀型産学官連携手法の構築に係るモデルプログラム]印象研究利益相反ポリシー策定に関するガイドライン、その他これらに類する国が定める指針に準拠している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 11 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 ・ 第1回 2014年度 富山大学研究倫理講習会（改正統合指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および、新指針に基づく新たな申請書式について） ・ 第2回 2014年度 富山大学研究倫理講習会（改正統合指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および、新指針に基づく新たな申請書式について） ・ 第3回 2014年度 富山大学研究倫理講習会（改正統合指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および、新指針に基づく新たな申請書式について）	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

別紙1「平成26年度 プログラム参加医師名簿」を参照。

2 研修の実績

研修医の人数	123人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
林 龍二	第一内科	呼吸器内科副科長	24年	呼吸器内科
峯村 正実	第三内科	消化器内科副科長	29年	消化器内科
平井 忠和	第二内科	循環器内科副科長	31年	循環器内科
小池 勤	第二内科	第二内科病棟医長	19年	腎臓内科
高嶋 修太郎	神経内科	神経内科副科長	36年	神経内科
村上 純	第三内科	血液内科副科長	24年	血液内科
薄井 勲	第一内科	代謝・内分泌内科副科長	24年	内分泌内科
岩田 実	第一内科	地域医療支援学客員准教授	23年	代謝内科
山本 善裕	感染症科	感染予防医学教授	24年	感染症内科
松井 祥子	第一内科	保健管理センター教授	31年	アレルギー疾患内科又はアレルギー科
篠田 晃一郎	第一内科	免疫・膠原病内科副科長	20年	リウマチ科
土岐 善紀	第一外科	呼吸器一般外科副科長	22年	呼吸器外科
奥村 知之	第二外科	消化器外科副科長	20年	消化器外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科科長	24年	乳腺外科
深原 一晃	第一外科	心臓血管外科副科長	24年	心臓血管外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科科長	24年	内分泌外科
廣川 慎一郎	第二外科	医学教育学准教授	33年	小児外科
高橋 努	神経精神科	神経精神科副科長	19年	精神科
川口 善治	整形外科	整形外科副科長	27年	整形外科
永井 正一	脳神経外科	脳神経外科副科長	23年	脳神経外科
米田 哲	産科婦人科	産科婦人科医局長	19年	産婦人科
柳澤 秀一郎	眼科	眼科副科長	20年	眼科
石田 正幸	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科副科長	21年	耳鼻咽喉科
富澤 岳人	放射線科	放射線科医局長	20年	放射線科
廣田 弘毅	麻酔科	麻酔科副科長	31年	麻酔科
若杉 雅浩	災害・救命センター	災害・救命センター医局長	22年	救急科
富原 圭	歯科口腔外科	歯科口腔外科副科長	14年	歯科口腔外科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

がん診療に携わる医師・コメディカルの緩和ケアについて、基本的な知識を習得することの継続性を確保し、治療の初期段階からの緩和ケアの提供が継続して行われるように研修するために、ファシリテーター等の指導のもと、参加者が、模擬の医師や家族の役を担当し、緩和ケアフォローアップを疑似体験し、緩和ケアの対応を習得する。

・研修の期間・実施回数

平成27年1月24日（土）9：00～17：40・1回

・研修の参加人数

39人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

保険診療にかかる研修会として、「社会保険診療報酬支払基金と保険診療の審査について」と題し、担当官の講義を受講することによって、適正かつ確実な保険診療を実施できるよう、その対応策を習得する。

・研修の期間・実施回数

平成27年3月10日（火）18：00～19：00・1回

・研修の参加人数

158人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状		
管理責任者氏名	病院長 塚田 一博		
管理担当者氏名	医療情報部長 中川肇、薬剤部長 足立伊佐雄、医事課長 絹石達也、放射線部長 野口京、看護部長 米道智子、病院総務課長 堰富美雄		
	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録  病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院総務課、医事課、薬剤部、看護部、放射線部	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。また、電子カルテ情報は、持ち出しが必要な場合は、経営企画情報部で所定の様式に記載していただいた後、担当の方で処理をして、持ち出しの記録を明確にして管理している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医薬系総務課人事・職員支援チーム	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	
	高度の医療の研修の実績	病院総務課臨床研修チーム	
	閲覧実績	病院総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
第規 一則 号第 一 掲条 の 十一 体第 一 確項 保各 の号 状及 び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課医療安全	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課医療安全	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医事課医療安全	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医事課医療安全
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
	及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課医療安全
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課医療安全
	第一号に掲げる	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
	体制の	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医事課医療安全
	確保の状況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課医療安全	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部病院総務課長 堰 富美雄
閲覧担当者氏名	病院事務部病院総務課課長補佐 澤崎 勝彦
閲覧の求めに応じる場所	病院事務部病院総務課
閲覧の手続の概要	
原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときは、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## (様式第6)

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院における安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>・医療に係る安全管理のための委員会その他の当該病院の組織に関する基本的事項</li> <li>・医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>・病院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>・医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）</li> <li>・患者からの相談への対応に関する基本方針</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントの報告に関すること</li> <li>・医療安全管理の教育及び研修に関すること。</li> <li>・医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。</li> <li>・医療の質の向上への取組みに関すること。</li> <li>・重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。</li> <li>・医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。</li> <li>・医療事故に係る当事者双方の対応に関すること。</li> <li>・その他医療安全管理に関すること</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>全職員の他、新規採用・中途採用の職員（医師、看護師、コ・メディカル職員及び事務職員）及び外部委託業者を対象に医療安全のための研修を計画し、実施している。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ヘパリン使用禁止患者の点滴が閉塞しそうになり、ヘパリン生食を使用した事例があり、患者への影響はなかったが日常にヘパリン生食によるフラッシュしていることが分かった。院内では生食のプレフィールドシリンジが採用されていなかった。そこで院内で意識調査を行いその結果生食ロック用シリンジの導入に賛同が得られた。尚ヘパリン生食及び生食は医師の指示で使用することを確認した。各診療科、各部署、薬剤部、医療安全管理室の協力で生食プレフィールドシリンジの採用となり平成27年4月1日より使用開始となった。その後全部署に定数配置している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（3名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員： 専任（3）名 兼任（21）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。</li> <li>・事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul> <p>（医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関すること。など）</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無



## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会その他の当該病院の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他の当該病院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 (随時、「病院感染対策マニュアル」を整備し、全職員への収支を図る)</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防対策の確立に関すること。</li> <li>・ 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>・ 感染予防の啓発及び教育に関すること。</li> <li>・ 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。</li> <li>・ 感染予防対策の評価及び改善に関すること。</li> <li>・ 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。</li> <li>・ その他感染予防に関すること。</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>全職員その他、新規採用・中途採用の職員（医師、看護師、コ・メディカル及び事務職員）及び外部委託業者を対象に感染予防対策のための研修を計画し実施している。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルコール手指消毒薬の適切な管理のため、開封日・使用期限を記載するシールを薬剤SPDで貼付し各部署へ払い出すことにした。</li> <li>・ 感染性胃腸炎の流行時期に外来での嘔吐物の処理について、必要物品が直ぐに準備できるよう各外来でセット化した。</li> <li>・ 血管内カテーテル関連感染予防のガイドラインで、クロルヘキシジン濃度が0.5%を超えるアルコール製剤の使用が推奨されたことから、消毒薬の切り替えを行なった。血流感染サーベイランスで今後の血流感染率について推移を見ていく。</li> <li>・ 抗菌薬適正使用を目的に、術前の予防抗菌薬の院内指針を作成しマニュアルに掲載した。</li> </ul>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>・医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項</p> <p>・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項</p> <p>・医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内での報告，行政機関への報告等）に関する事項</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 ○有・無</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成。</p> <p>・実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認。</p> <p>・確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 ○有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，行政機関及び学術誌等からの情報を広く収集・管理する。</p> <p>・得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行う。</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 75 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・有効性・安全性に関すること</li><li>・使用方法に関すること</li><li>・保守点検に関すること</li><li>・不具合発生への対応に関すること</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<p>・計画の作成 ○有・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日常点検</li><li>・使用後点検</li><li>・定期点検</li></ul>
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ○有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・メーカーや業者からの情報提供</li><li>・関連学会、研究会等への出席や電子メールによる情報提供</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期  日本医療機能評価機構、病院機能評価 (2013/11/27~28)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要  院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者さんのみならず、関連する地域の関連病院等へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  がん診療における緩和ケアチームや食事や栄養管理を通じて疾病の治療や予防に寄与する栄養サポートチームなどの体制を整備し、関係診療科等や薬剤部、並びに、看護部等との連携を図り、係る診療に対応できる体制を取っている。	

## 平成26年度プログラム参加医師名簿

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先	
1	2010	第一内科	糖尿病トータルケア	朴木 久恵	女	16年	H13	富山大学附属病院
2	2011	第一内科	糖尿病トータルケア	岡部 圭介	男	9年	H20	富山大学附属病院
3	2012	第一内科	糖尿病トータルケア	角 朝信	男	5年	H22	富山大学附属病院
4	2008	第一内科	糖尿病基礎研究大学院	瀧川 章子	女	10年	H17	富山大学附属病院
5	2008	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	津田 玲奈 (旧姓:小川)	女	11年	H18	富山大学附属病院
6	2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	小尾 麻衣子 (旧姓 奥村)	女	5年	H22	富山大学附属病院
7	2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	山口 智史	男	5年	H22	富山大学附属病院
8	2008 2010	第一内科	呼吸器専門医、大学院	猪又 峰彦	男	15年	H14	富山大学附属病院
9	2010	第一内科	呼吸器専門医、大学院	岡澤 成祐	男	13年	H16	富山大学附属病院
10	2008 2010	第一内科	呼吸器専門医、基本	山田 徹	男	20年	H9	富山大学附属病院
11	2009	第一内科	呼吸器専門医、基本	神原 健太	男	14年	H15	富山大学附属病院
12	2008	第一内科	呼吸器専門医、基本	高 千紜 (旧姓:松島)	女	12年	H17	富山大学附属病院
13	2008	第一内科	呼吸器専門医、基本	徳井 宏太郎	男	11年	H18	富山大学附属病院
14	2013	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	松井 篤	男	4年	H23	富山大学附属病院
15	2014	第一内科	糖尿病トータルケア	中嶋 歩	女	3年	H24	富山大学附属病院
16	2012	第一内科	呼吸器専門医、大学院	下川 一生	男	7年	H20	富山大学附属病院
17	2009	第二内科	循環器総合研修コース	牛島 龍一	男	11年	H18	富山大学附属病院
18	2010	第二内科	循環器総合研修コース	稲尾 杏子 (金沢医科大卒)	女	10年	H19	富山大学附属病院
19	2010	第二内科	循環器総合研修コース	赤羽 崇	男	9年	H20	富山大学附属病院
20	2010	第二内科	循環器総合研修コース	福井 康貴	男	9年	H20	富山大学附属病院
21	2012	第二内科	循環器総合研修コース	桑原 弘幸	男	5年	H22	富山大学附属病院
22	2013	第二内科	循環器総合研修コース	辻野 泰	男	4年	H23	富山大学附属病院
23	2012	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	藤岡 勇人	男	5年	H22	富山大学附属病院

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先
24	第二内科	虚血・心不全研修コース	田中 修平	男	5年	H22	富山大学附属病院
25	第二内科	循環器総合研修コース	片岡 直也	男	10年	H19	富山大学附属病院
26	第三内科	消化器総合研究コース	安藤 孝将	男	16年	H13	富山大学附属病院
27	第三内科	消化器総合研究コース	三原 弘	男	15年	H14	富山大学附属病院
28	第三内科	消化器総合研究コース	南條 宗八	男	12年	H17	富山大学附属病院
29	第三内科	消化器総合研究コース	高取 俊介	男	8年	H21	富山大学附属病院
30	第三内科	腫瘍内科医養成コース	中田 直克	男	11年	H18	富山大学附属病院
31	第三内科	腫瘍内科医養成コース	吉田 啓紀	男	11年	H18	富山大学附属病院
32	第三内科	腫瘍内科医養成コース	梶浦 新也	男	16年	H11	富山大学附属病院
33	第三内科	血液総合研究コース	和田 暁法	男	14年	H15	富山大学附属病院
34	第三内科	血液総合研究コース	在田 幸太郎	男	10年	H19	富山大学附属病院
35	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	西水 俊准	男	10年	H19	富山大学附属病院
36	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	高嶋祐介	男	3年	H24	富山大学附属病院
37	第三内科	消化器総合研究コース	西野 貴晶	男	3年	H24	富山大学附属病院
38	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	小林 才人	男	3年	H24	富山大学附属病院
39	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	北林 誠	男	3年	H24	富山大学附属病院
40	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	原 寛	男	13年	H16	上越総合病院(4月～9月) 富山大学附属病院(10月～3月)
41	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	関 友里	女	4年	H23	富山大学附属病院
42	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	森 直哉	男	4年	H23	富山大学附属病院
43	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	鹿見山 浩	男	5年	H22	富山大学附属病院
44	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	林 政雄	男	3年	H24	富山大学附属病院
45	小児科	小児総合内科医養成コース	西田 直徳	男	10年	H17	富山大学附属病院
46	小児科	小児総合内科医養成コース	田村 賢太郎	男	9年	H18	富山大学附属病院

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先	
47	2009.4.1 (開始) 2011.12.1	小児科	小児総合内科医養成コース	高崎 麻美	女	8年	H19	富山大学附属病院
48	2009	小児科	小児総合内科医養成コース	小浦 詩	女	8年	H19	富山大学附属病院
49	2010	小児科	小児総合内科医養成コース	仲岡 英幸	男	7年	H20	富山大学附属病院
50	2010	小児科	小児総合内科医養成コース	平岩 明子 (旧姓:杉山)	女	7年	H20	富山大学附属病院
51	2012	小児科	小児総合内科医養成コース	坂田 奈緒 (旧姓:沼山)	女	5年	H22	富山大学附属病院
52	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	牛尾 悠 (旧姓:有沢)	女	3年	H24	富山大学附属病院
53	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	齊藤 悠	男	3年	H24	富山大学附属病院
54	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	寺下 新太郎	男	3年	H24	富山大学附属病院
55	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	長岡 貢秀	男	3年	H24	富山大学附属病院
56	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	森 こずえ	女	3年	H24	富山大学附属病院
57	2008	神経精神科	海外留学研究コース	木戸 幹雄	男	10年	H18	富山大学附属病院
58	2011	神経精神科	学位取得研究コース	西川 祐美子	女	6年	H21	富山大学附属病院
59	2011	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	山口 幸志	男	8年	H20	富山大学附属病院
60	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	藤岡 珠美	女	5年	H22	厚生連滑川病院(4月~9月) 富山大学附属病院(10月~3月)
61	2013	神経精神科	学位取得研究コース	中村 美保子 (新潟大学卒)	女	4年	H23	富山大学附属病院
62	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	嶋 有希子 (山口大学卒)	女	5年	H22	富山大学附属病院
63	2013	神経精神科	学位取得研究コース	笹林 大樹 (信州大学卒)	男	4年	H23	富山大学附属病院
64	2014	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	大口善隆	男	3年	H24	富山大学附属病院(4月~9月) 谷野呉山病院(10月~3月)
65	2011	放射線科	放射線治療研究者養成コース	山岸 健太郎	男	11年	H18	富山県立中央病院(4月~9月) 富山大学附属病院(10月~3月)
66	2011	放射線科	放射線診断・IVR研究者養成コース	鳴戸 規人	男	8年	H21	富山大学附属病院
67	2011	第一外科	呼吸器外科専門医養成コース	坂田 公正	男	8年	H21	富山大学附属病院
68	2011	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	名倉 里織	女	14年	H15	富山大学附属病院
69	2009	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	青木 正哉	男	10年	H19	富山大学附属病院

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先	
70	2013	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	松尾辰朗	男	14年	H13	富山大学附属病院
71	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	関根 慎一	男	12年	H15	富山大学附属病院
72	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	森山 亮仁	男	11年	H16	富山大学附属病院
73	2008	第二外科	消化器外科専門医養成コース	山口 哲司	男	11年	H16	済生会高岡病院(4月～6月) 富山大学附属病院(7月～3月)
74	2009	第二外科	消化器外科専門医養成コース	小島 博文	男	11年	H16	富山大学附属病院
75	2010	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	平野 勝久	男	7年	H20	富山大学附属病院
76	2010	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	渡辺 徹	男	7年	H20	富山大学附属病院
77	2012	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	三輪 武史	男	7年	H20	済生会富山病院(4月～9月) 富山大学附属病院(10月～3月)
78	2012	第二外科	消化器外科後期研修中	祐川 健太	男	5年	H22	富山大学附属病院(4月～9月) 済生会富山病院(10月～3月)
79	2012	第二外科	消化器外科後期研修中	出村 しおり	女	5年	H22	けいなん総合病院(4月～9月) 富山大学附属病院(10月～12月) 済生会高岡病院(1月～3月)
80	2012	第二外科	消化器外科後期研修中	真鍋 高宏	男	5年	H22	済生会富山病院(4月～9月) 済生会高岡病院(10月～12月) 富山大学附属病院(1月～3月)
81	2014	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	福田卓真	男	3年	H24	富山大学附属病院(4月～9月) けいなん総合病院(10月～3月)
82	2013	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	高 正圭	男	7年	H20	富山大学附属病院
83	2011	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	牧野 絃士	男	6年	H21	富山大学附属病院
84	2014	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	小林 賢司	男	3年	H24	富山大学附属病院
85	2009	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	鮫島 梓	女	10年	H19	富山大学附属病院
86	2009	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	福田 香織	女	10年	H19	富山大学附属病院
87	2009	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	青木 藍子	女	10年	H19	富山大学附属病院(9月～3月)
88	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	伊東 雅美	女	8年	H21	富山大学附属病院
89	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	小野 洋輔	男	8年	H21	富山大学附属病院
90	2011	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	竹村 京子	女	8年	H21	富山大学附属病院
91	2014	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	小林 睦	男	3年	H24	富山大学附属病院
92	2014	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	安田 一平	男	3年	H24	富山大学附属病院



参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先	
93	2008	眼科	眼科全般コース	武田 祥子 (旧姓:山出)	女	12年	H17	富山大学附属病院
94	2008	眼科	眼科全般コース	宮腰 晃央	男	10年	H19	富山大学附属病院
95	2010	眼科	眼科全般コース	藤田 和也	男	9年	H20	富山大学附属病院
96	2010	眼科	眼科全般コース	中村 友子	女	9年	H20	富山大学附属病院
97	2014	眼科	眼科全般コース(仮)	大塚光哉	男	3年	H24	富山大学附属病院
98	2010	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成コース	舘野 宏彦	男	9年	H20	富山大学附属病院
99	2012	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成コース	中西 亮人	男	5年	H22	富山大学附属病院
100	2010	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍専門医 養成コース	阿部 秀晴	男	9年	H18	富山大学附属病院
101	2013	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍専門医 養成コース	中里 瑛	男	4年	H23	富山大学附属病院
102	2014	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成コース	伊東 伸祐	男	3年	H24	富山大学附属病院
103	2011	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	服部 瑞樹	男	6年	H21	富山大学附属病院
104	2012	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	川上 正晃	男	5年	H22	富山赤十字病院(4月～9月) 富山大学附属病院(10月～3月)
105	2008	麻酔科	麻酔科専門医・地域密着コ ース	南條 和美 (旧姓:矢後)	女	12年	H17	富山大学附属病院
106	2009	麻酔科	麻酔科専門医・地域密着コ ース	青木 絵梨子	女	8年	H19	富山大学附属病院
107	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	池田 紗希代	女	3年	H24	富山大学附属病院
108	2014	麻酔科	麻酔科専門医大学院コース	亀山 暁世	女	3年	H24	富山大学附属病院
109	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	小林 慶	女	3年	H24	富山大学附属病院
110	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	千田 慧子	女	3年	H24	富山大学附属病院(4月～9月) 富山赤十字病院(10月～3月)
111	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリスト コース	立花 怜	男	3年	H24	富山大学附属病院(4月～9月) 黒部市民病院(10月～3月)
112	2008	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢方 医学研究医育成コース	渡り 英俊	男	10年	H17	富山大学附属病院
113	2008	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢方 医学研究医育成コース	海老澤 茂	男	10年	H17	富山大学附属病院
114	2009	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢方 医学研究医育成コース	北原 英幸	男	8年	H19	富山大学附属病院
115	2009	和漢診療科	漢方内科専門研修 (地域医療)および漢方 医学研究医育成コース	三澤 広貴	男	8年	H19	富山大学附属病院

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	H26年度研修先	
116	2009	神経内科	関連病院連携コース	小西 宏史	男	10	H19	富山大学附属病院
117	2010	神経内科	関連病院連携コース	吉田 幸司	男	7	H20	富山大学附属病院
118	2012	神経内科	関連病院連携コース	林 智宏	男	5	H22	富山大学附属病院
119	2012	神経内科	関連病院連携コース	山本 真守	男	5	H22	富山大学附属病院
120	2014	感染症科	感染症専門医・研究医養成コース	河合 暦美	女性	3年	H24	富山大学附属病院
121	2009	病理部	病理専門医育成コース (診断病理医トータルコース)	濱島 丈	男	15年 ?	H17	富山大学附属病院
122	2014	総合診療部	総合診療専門医コース	関島 梓	女	8年	H19	東京女子医科大学病院(4月~5月) 富山大学附属病院(6月~3月)
123	2014	総合診療部	総合診療専門医コース	滝林 正浩 (旧姓:長妻)	男	5年	H22	市立大町総合病院(4月~6月) 富山大学附属病院(7月~3月)